

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772600039		
法人名	社会福祉法人 いなほ会		
事業所名	グループホーム いなほ		
所在地	沖縄県 中頭郡 中城村 字 添石363番地		
自己評価作成日	平成21年 12月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojoho-okinawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4772600039&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会		
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1		
訪問調査日	平成22年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

11月から法人厨房より調理指導を受け、栄養面・見栄え・形態等詳しく知ることができ、利用者は楽しく食事をすることが出来た。
今までは手作りのおやつを中心に提供していたが更にレパートリー(ヒラヤーチー・ぜんざい・スポンジケーキ)が増えた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、中城湾を眼下に望む眺めがよい環境にあり、大きな窓から日差しが差し込みホーム全体が明るい。職員は利用者の意向をセンター方式のアセスメント様式により把握している。また利用者の多くがおむつを使用しているものの屋間ではできる限りトイレに誘導してできる限り排泄を自立してもらおうよう取り組んでいる。さらに法人本体の調理師が定期的に職員へ調理方法を助言して利用者の食欲が増すよう取り組んでいる。利用者がかつて住んでいた地域に出かけたり、地域の行事に参加することで昔のなじみの人との関係が再構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りに理念を唱和し、理解することでケアの実践に活かせるようにしている。	昨年の外部評価で報告された点が改善され、地域との連携に関して管理者は、これまで積み上げてきた認知症ケアの実践を引き継いでいきたいと考えている(中学校や保育園との交流、中城村社協からのボランティアの受け入れ等立地条件の不利益を感じさせない取り組み等)。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に2度の野外活動へ出かけ、地域とのつながりが続けられるように支援している。また中城赤十字団のボランティアが入ったり、行事には保育園や地域婦人会の踊り等で交流を図っている。	自宅訪問や利用者が住んでいた地域のスポーツ大会に利用者と一緒に出かけ交流を図っている。またインフルエンザの影響で、月2回のミニドライブを控えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域と交流を図り、グループホームの活動を通して理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所取り組み状況を報告し、委員の方々から意見を頂き職員へ伝達している。	事業所からの報告以外に参加者の方々との意見交換を行っており、その中から提起された意見に対してすぐに改善されたこともある。例えば人事異動で職員が変わり顔と名前が分かりにくいため職員の名前と写真を掲示してほしいという意見があり対応した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とホームの行事や活動内容を相談し、学校等のボランティア受け入れへとつなげている。	村の広報誌に事業所紹介を掲載している。在宅介護者の相談にいつでも対応できる連絡体制である。5年前より地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、そこで地域住民を対象とした介護予防教室の開催等連携しているが、現在はインフルエンザの影響により保留している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠はせず、常に玄関の開閉には意識を持っている。	夜勤職員が1人になる午後9時から玄関を施錠して朝6時には開錠している。夜間利用者が落ち着かずにホーム内を歩いている時は家族の方に電話をして、利用者本人と会話をしてもらい落ち着いていただくこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者研修に参加、高齢者虐待防止関連方を学ぶ。得た情報を他職員へ伝達、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が計画的に学ぶ機会を設けて、資料を配り自己学習の啓蒙を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前面談を行い、契約書に基づき契約や解約時説明を充分に行い、同意書を交付することが出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は法人担当受付係りに相談が出来るように表示している。外部の機関にも相談ができるように連絡先を掲示している。	「意見箱」にはこの1年間投書は見られない。広域連合より定期的に介護相談員を受け入れて利用者からの意向を把握する機会を設けている。日常的に家族より相談を受けつけて介護経過記録に記入しているが、その中で直接事業所全体のサービス改善に結びつく相談について定型化した様式としてまとめられていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の事業所全体会議を行い、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。必要に応じて随時サポートミーティングも行っている。	利用者の転倒をきっかけとして、職員より早朝の勤務体制について調整の要望が出され短期間の業務変更が行われている。また物品購入の希望があれば事業所全体会議で意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員勤務実績・勤務状況を把握し評価しているのと、条件整備の話し合いを会議等で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修を受ける機会を各職員に伝え、研修参加機会を設けて研修を受けやすい環境を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1度の勉強会に参加、他事業所と情報交換を行いサービスの質の向上を図っている。(法人外)		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の、本人(事業所)との面談を密に行い、入居後は安心して過ごせるように傾聴し、信頼関係形成に力をいれている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族・事業所等と面談に力を入れている。 入居初めは密に連絡し、家族との関係が図れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、他事業所と連携、必要な方を案内する前に空床を準備することができている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや食事の下準備など、家事支援を中心に「役割」の意識を持つことで、職員と対等の関係が作れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を保ち、「ホームに足を運んでいただく」「すぐに家族に連絡ができる」ように心がけ、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた身近な人の来訪を促し、姉妹・親戚等の来訪を要請している。	利用者の多くが病院や施設から事業所に入居している。入居時にこれまでのなじみの関係が途切れてしまっていることが多いため、積極的に自宅や近隣地域を訪問して利用者となじみのある知人との再交流を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合えるように、ホールで皆が過ごせるよう整え、「地域の話」等の会話の橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も面会し(行き来)交流している。 地域の事業所と経過を支援することができる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを活用し困難な場合は、本人本位に検討を繰り返している。	利用者の意向をセンター方式のアセスメントを活用して把握している。また、利用者の表情の変化が見られたときには本人の意向と考え、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全利用者にセンター方式を活用している。 ご家族の協力もあり、本人から聞くことが難しい「これまでの暮らし」の把握に努めケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのアセスメントを実施、病状・身体機能・社会面を把握、個々に合わせたプランを検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当でモニタリングを行い、一人ひとりに合った介護計画を作成している。	3か月に1回家族が参加し定期的にモニタリングを実施しており、利用者もその話し合いを聞いている。会議では利用者の生活状況を一番把握している担当職員も出席して日常の生活状況を提供している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画に基き個別に記録し、日に三度の申し送りを行い職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	村役場・村社会福祉協議会・法人事業所等と連携することができ、その都度ニーズに合わせた相談が出来る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	健康保険を活用して、リハビリ等を行い他のサービスを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医を大切に、協力病院に限らず、住み慣れた地域での病院への通院を支援している。 (協力病院以外 6名)	原則家族がかかりつけ医の受診を行っている。医師からの利用者の生活上の留意点について情報を提供してもらっている。職員はその医療情報を把握して利用者の支援にあたり、状態変化にも対応できるようにしている。利用者の症状によっては、訪問診療を依頼することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	運営推進委員である保健師から、健康面・精神面等のアドバイスを受けている。 法人内看護師と連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との情報交換によって、早期に退院することが出来た。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族から要望があれば、すぐに対応出来るように法人内看護師、推進委員の保健師から助言を頂く。	現在終末期に該当する利用者が見られず、一部の家族が終末期に向けて検討している状況である。職員間で直接終末期に関する話し合いは行われていない。	現在事業所に看護師の配置がないので、今後は看護職の配置や事業所として終末期に向けた方針について職員間で意見を取り交わしていけることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は定期的に救命講習を受けており事故発生時、初期対応ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月と11月に避難訓練を行ない学び、非常時は全職員の召集と自治会及びタクシー会に連絡体制を整えている。	事業所内には、消火器や消防署への緊急通報装置、スプリンクラーが整備されている。詳細な避難訓練マニュアルのもと法人全体で年2回避難訓練が行われているが、事業所独自の訓練は行われていない。	今後は事業所で火災が発生したことを想定した実践的な避難訓練の対策を立てられるよう期待したい。日勤や夜勤帯など時間ごとの対応方法、普段からの利用者の避難経路までの移動訓練等の取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉遣いや「訪室時の挨拶」などプライバシーを損ねないように声かけをしている。	食卓をたたくことで意思を示す利用者に対して、他の利用者との関係が悪くならないよう、別の食卓を準備して職員がつき添う等配慮が見られた。利用者の立場に立ち最善の対応を取るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の声に耳を傾け希望に応え、家事支援・趣味活動を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた家事支援を行い、遅食や入浴など、利用者のペースに添ったケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着ていた衣類を持って来ていただき、本人のスタイルを維持していただく。また、「3ヶ月に1度の訪問美容院」の利用、普段の「お化粧品援助」を実施し、オシャレの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえを通し出来る食事の話しながら楽しむようにしている。職員も一緒に座り美味しく食べている。	母体法人の調理師が定期的に事業所内の職員へ調理方法を助言して利用者の食欲が増すよう取り組んでいる。3食ともホーム内で職員が調理して利用者と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内施設、栄養士の協力がありバランスの摂れた献立の提供がある。また一人ひとりの病状を把握し、栄養・水分摂取状態の安定を支援している。定期的に調理の指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の誘導を実施し、口腔ケアの徹底が図れている。また、ポリドント洗浄も行って清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導の徹底を図っている。	トイレ内は頻回に掃除がされ清潔が保たれている。利用者の多くがおむつを使用しているものの、昼間はできる限りトイレに誘導して排泄を自立してもらうよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、食物繊維の多い食品や水分補給に力を入れている。病院主治医と連携し便秘改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	「ゆっくり入りたい」「足浴をしたい」「一番に入りたい」等、本人希望に添って入浴支援をしている。	設立当初より入浴に関しては利用者本人の希望に沿って支援している。「一番に入りたい」と希望する時にはそのように対応している。現在は直接希望を訴えてくるのが少なくなってきた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、「午睡の援助」、「休息時安楽体位」を行い、気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時情報共有を行い、職員は一人ひとりの内服薬表を理解している。処方に変更が合った場合も、申し送りを行い周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合わせた家事支援等の役割活動や、利用者から方言(宮古島や岐阜県の方)を習ったりと個々に合わせたケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に2度の野外活動やドライブを行い、外出する機会を設けている。 気分転換時には敷地内を職員と散歩することができる。	事業所は傾斜地に立地しているが、利用者は職員と一緒にホーム周辺の平坦地を散歩している。また現在インフルエンザの影響から、昨年まで月2回行ってきたミニドライブを控えている。	今後は同敷地内にあるデイサービスセンターや介護保険施設を利用者と訪問する等して日常的な外出支援の取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の理解を得て、小遣いを預かり活動の際に、一人ひとりほしい物を購入することができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人要望がある時には、電話をしてもらう。家族からお花が届いた際に、利用者より電話すると喜ばれた。 感染対策として、面会を自粛していただき、近況報告も兼ね手紙の作成を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は日当たりがよく、時間帯に合わせ光の調整をしている。 壁面には折り紙等で季節感を出した作品を展示、楽しんでいただいている。	中城湾を眼下に望む眺めのよい環境にある。大きな窓から日差しがフロアに差し込み事業所全体が明るい雰囲気を出している。事業所が広く各所にイスが置かれており、利用者が一人で休めるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの共用空間では、気の合った利用者との席を配慮している。 要望にあわせて、独りでテレビを見ることができる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心感の持てるように、各居室には本人の思い出の品や、使い慣れた家具を設置し工夫している。	利用者自身の若いころ流行していた芸能人のポスターが貼られていたり、結婚式の写真が飾られていたり利用者好みやこれまでの生活が彷彿させるような配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は完全バリアフリーで、廊下やトイレ等に手すりが取り付けられ安全な環境を整え配慮している。 一人ひとりに合わせて居室を配慮し、プレート等の表示を工夫している。		